

田光神社の楠（続）

1月20日のレポートの続きである。瑞穂区大喜新町の田光神社の楠について書いた。「弘法七本楠」として由緒ある楠で、尾張名所図会にも記されている名木である。まち歩きで偶然見つけたものだ。

名古屋市立大滝子キャンパス西門を出て、滝子商店街とは反対の南の方に向かって歩く。すこし下って、信号の前で前方遠くに、何か変わった形のものが目にとまる。とにかく真っすぐ行くと、大きな鳥のような形をした大木らしきものが見えてくる。

熱田神宮の方から東に延びる道の「大喜新町3丁目」と書かれた横断歩道橋に上ると、田光神社の大楠が

近くに眺められる。前のレポートでは、境内の中から楠を撮ったが、大きすぎて全体を写せなかった。歩道橋からの方が大楠全体を写すことができた。それにしても立派な大木だ。田光神社は「たこう」ところに位置しているので、遠くからも見えるのだろう。

サイトにより、クスノキ（樟・楠）をすこし調べてみた。クスノキは本州中南部から四国、九州、沖縄、済州島、台湾、中国南部、インドシナに分布している。自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）によると、巨樹・巨木のトップ10のうち、8本がクスノキである。トップの鹿児島県の「蒲生の大楠」は、幹周24.2m、樹高30m、樹齢1500年という。クスノキは人の手の入らない森林では見かけることが少なく、人里近くに多い。とくに神社林ではしばしば大木が見られ、「ご神木」として人々の信仰の対象とされるものもある。田光神社の大楠もその一つであろう。

自治体の「木」に指定されているところも多い。愛知県では名古屋市、豊橋市、刈谷市、西尾市、蒲郡市、東海市、尾張旭市、高浜市、岩倉市、田原市、東浦町、武豊町の「木」となっているようだ。名古屋市の「花」はゆりだと知っていたが、「木」がクスノキだと初めて知った。これも田光神社の大楠のおかげだ。



(2016年2月9日)